

(研究報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	同一事業所内で医師と協働することと「ケアプラン作成時の自己評価」の関連性についての検討 ケアマネジャーを対象にしたアンケート調査結果から：その 2
演者名	服部孝二 ¹ 廣瀬貴久 ² 紙谷博子 ¹ 辻典子 ² 鈴木裕介 ² 葛谷雅文 ¹
所属	1. 名古屋大学大学院医学系研究科 地域在宅医療学・老年科学 2. 名古屋大学医学部医学系研究科地域包括ケアシステム学寄附講座

研究方法 (右から番号を選び NO. 欄に番号を ご記入ください)	1. 症例報告 2. 症例シリーズ報告 3. コホート研究	NO. 5
	4. 症例対照研究 5. 調査研究 6. 介入研究 7. 二次研究 8. 質的研究 9. その他研究	
目的：地域包括ケア推進において,介護支援専門員（ケアマネジャー：CM）に求められる重要な資質は,医療知識を含め多職種協働の成果を効率的にサービス提供に反映させることである.医療従事者,特に医師と協働することは医学知識の効率的反映が期待される.CM が医師と同一事業所で協働することがケアマネジメントの資質向上に寄与しているかどうかケアプラン作成に関わる因子を用いて検討した. 方法：愛知 CM 研究会教育プログラム受講者（n=70）,愛知 CM 更新研修の受講者（n=758）を対象にアンケート調査を施行.医師が同一事業所で働いているかどうか（働いている:n=68,働いていない:n=760）とケアプラン作成時に関わる因子との関係について CM828 名による差異を x²検定,ロジスティック回帰分析を用いて比較検討した. 結果：医師が同一事業所で働いている CM は,働いていない CM と比較して「医学知識が多い;P=0.027」,「情報は取れている;P=0.018」,「ケアプラン立案に問題はない;P=0.019」と回答.調査場所,性別,年齢,CM 経験年数,看護資格の有無を含めた多変量ロジスティック回帰分析で,「医師と同一事業所で協働すること」と関連があったのは経験年数のみであった[「5 年 以 上 10 年 未 満 」(OR 2.07(95%CI:1.02-4.18) p=0.043)「10 年 以 上 」(OR 4.14(95%CI:2.12.-8.10)p<0.001); reference=「5 年未満」]. 考察：医師が同一事業所で協働することは「医学知識が多い」とは関連がみられなかった.原因としては CM と医師とのコミュニケーション阻害や,CM の基本的医学知識不足などが考えられる.本研究では CM と医師との親密性については言及しておらず,さらなる研究が必要である.		